

スーパーマーケット景気動向調査

2015年4月調査結果（3月実績）
（4月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は下落も、見通し判断は4ヵ月連続の上昇を示す

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-1.8の46.0、見通し判断前月から+1.0の45.3となり、現状判断は下落したものの、見通し判断は4ヵ月連続の上昇となった。

経営動向調査結果では、前年駆け込み需要からの反動の影響を受け、売上高DIが-16.0、収益DIは-9.6と大きなマイナスとなった。客単価DIは-10.4、乗客数DIが-11.5と同様に反動から二桁のマイナスとなった。生鮮品仕入原価DI、食品仕入原価DI共に2桁プラスで高止まりしているが、販売価格DIは小幅に減少し（前月比-4.1）4.9となった。

カテゴリー動向結果では、反動の影響は一般食品と非食品カテゴリーで特に大きくみられ、DIは-29.7、-32.4と共に大きく落ち込んでいる。影響が軽微な生鮮品カテゴリーでもやや下落しているが、畜産DIは10.1（前月比-3.0）と引き続き好調であり、水産DIも3.6（前月比-6.0）と、やや好調を維持している。青果DIは-1.2やや不調ではあるもマイナス幅は縮小している（前月比+2.9）。惣菜DIは9.9（前月比-6.8）とやや好調である。

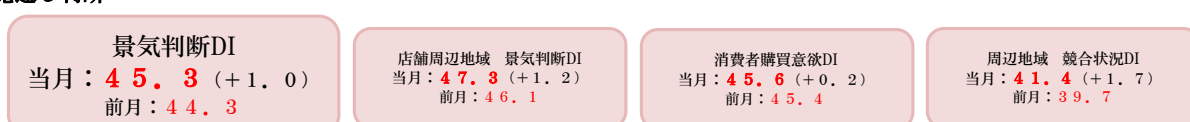
景況感調査では、現状判断は小幅に下落したものの、見通し判断DIではすべてのDIが上昇しており、景況感に一定の底堅さが確認されている。消費税率引き上げ後のスーパーマーケットは、生鮮品（特に畜産）が販売を牽引した1年となった。景況感上向きであり、それらが一巡する次月4月から、どのような販売動向の推移をたどっていくか注目される。

景況感調査

現状判断

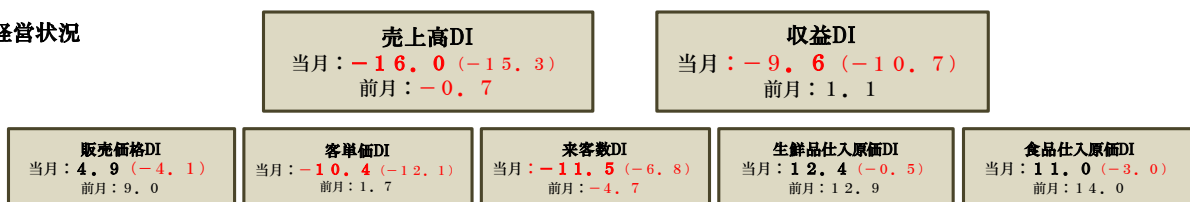


見通し判断



経営動向調査

経営状況



カテゴリー動向

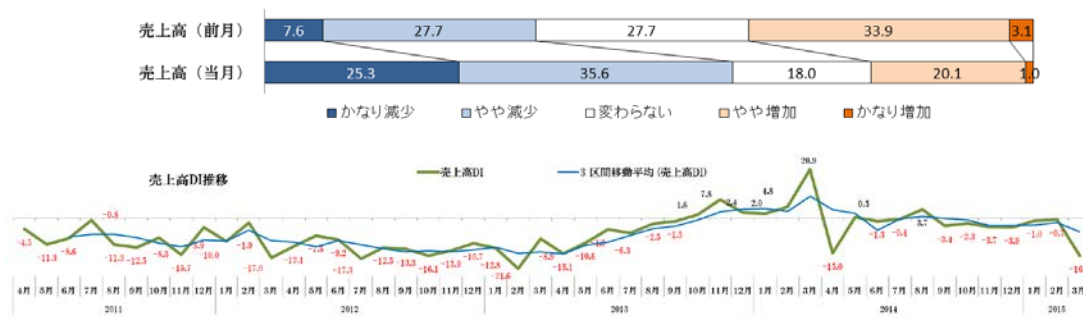


○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

4月調査（3月実績）結果詳細 I. 経営動向調査

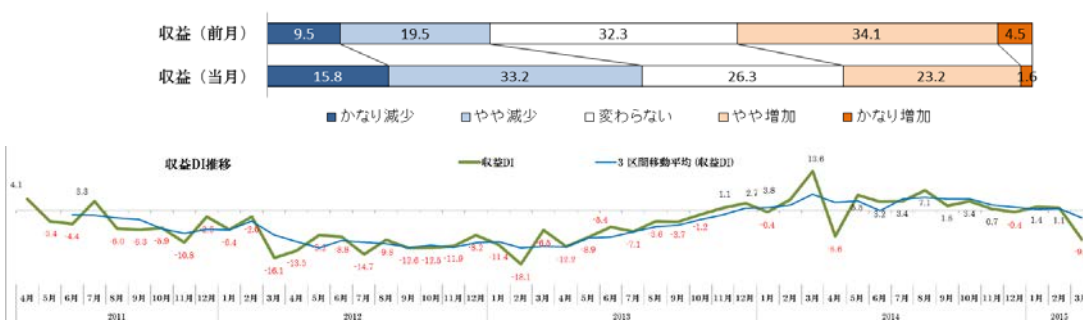
1. 売上高DI

前年駆け込み需要の反動で大きく下落



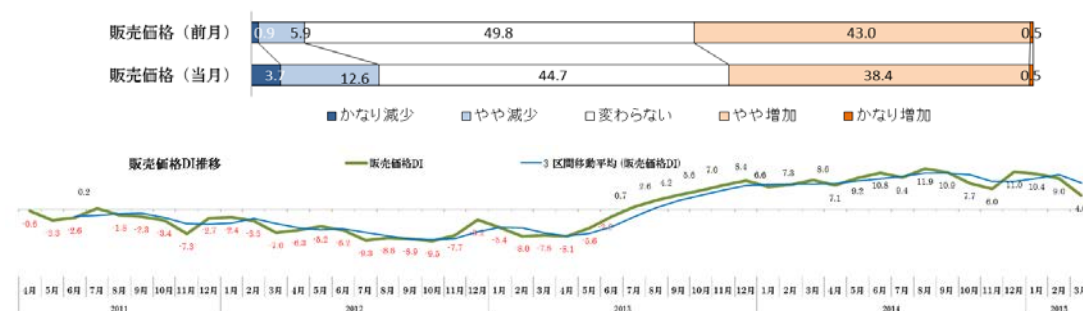
2. 収益DI

前年駆け込み需要の反動で大きく下落



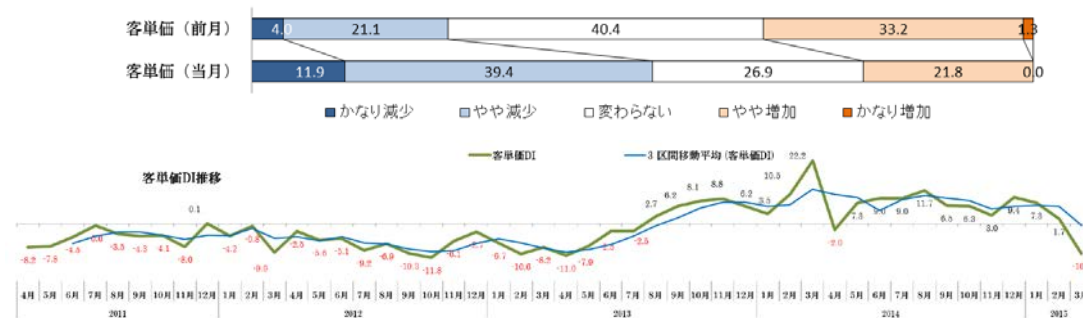
3. 販売価格DI

3月は下落も20ヵ月連続のプラスとなり、依然として高水準を維持



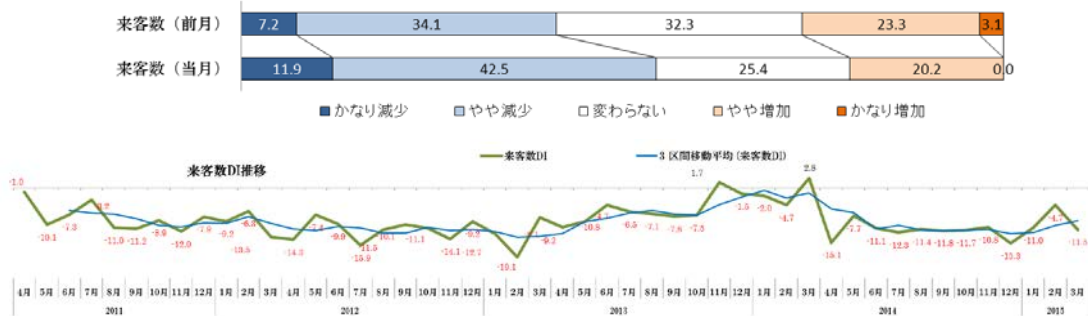
4. 客単価DI

前年駆け込み需要の反動で大きく下落



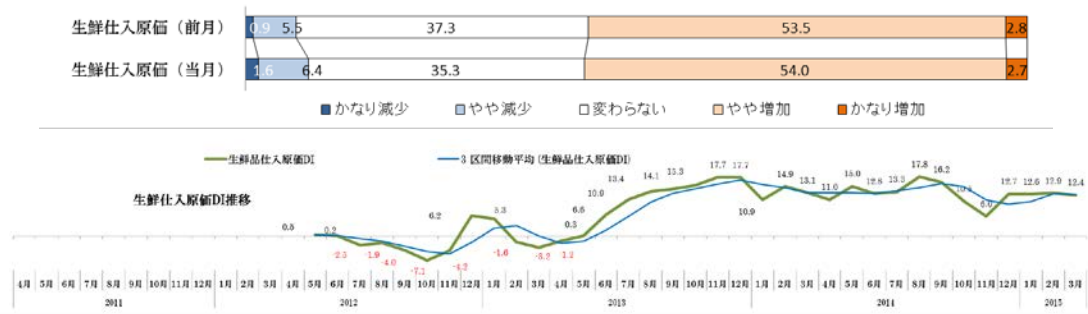
5. 来客数 DI

前年駆け込み需要の反動で下落



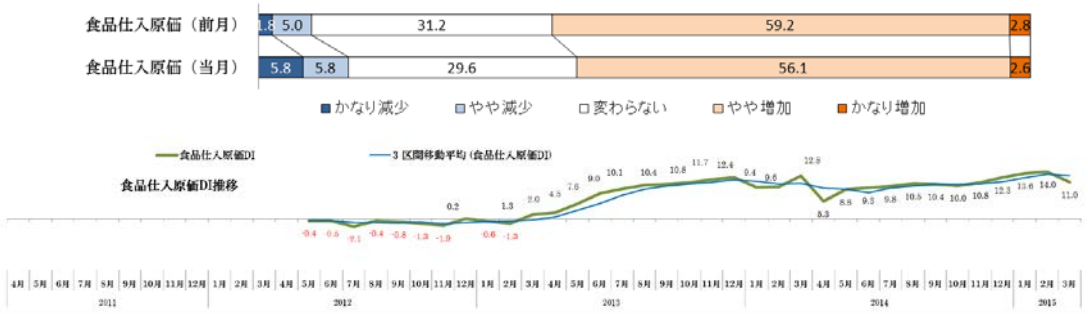
6. 生鮮仕入原価 DI

高止まり傾向をみせ、4 ヶ月連続の二桁プラスを記録



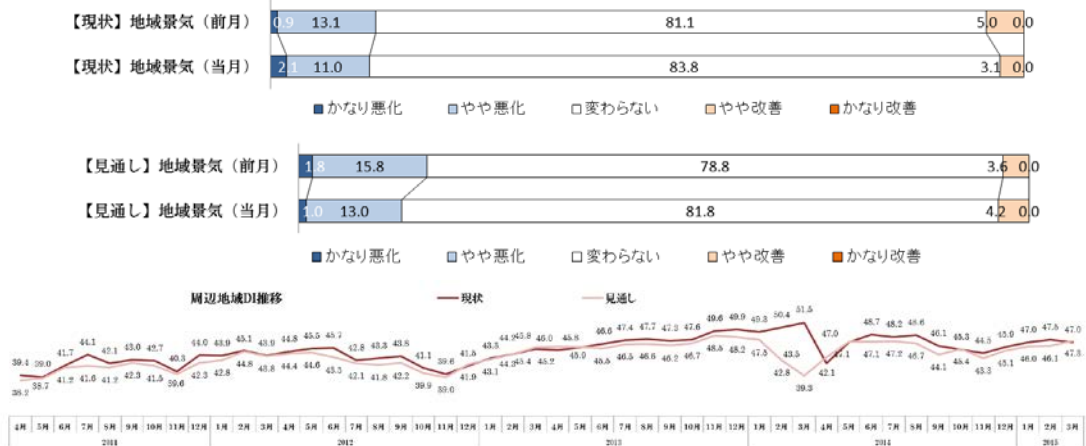
7. 食品仕入原価 DI

やや落ち着きをみせると高止まり傾向をみせ、8 ヶ月連続の二桁プラスを記録



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

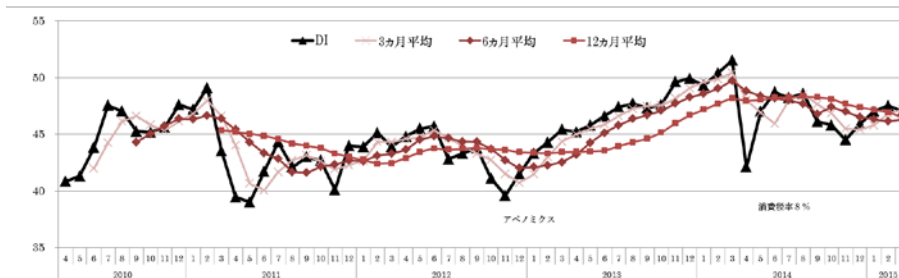
現状判断は直近小幅に下落も、見通し判断は4ヵ月連続で上昇し、底堅く推移



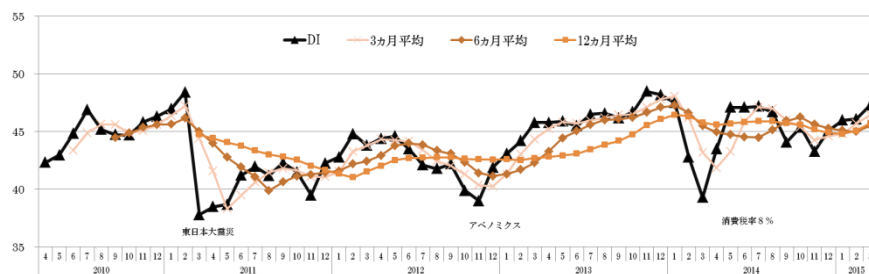
長期傾向（2010年4月～）

2012年11月以降上昇を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では下落が続いた。12月以降は一転して上昇をみせ、回復傾向がみられている。3ヵ月周期で方向性が変化しているが、3月は駆け込み需要からの反動の影響が懸念されたものの、現状判断での小幅な悪化にとどまっており、見通し判断は引き続き上昇し、4ヵ月連続の改善となった。景況感の基調は引き続き底堅く回復傾向を維持していると考えられる。

現状判断（中長期傾向）



見通し判断（中長期傾向）



Ⅲ. カテゴリー別動向

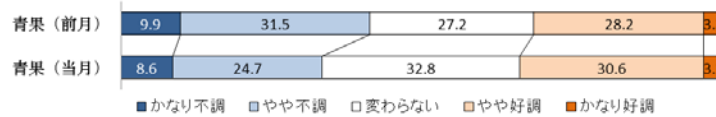
カテゴリー別動向 DIによる好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

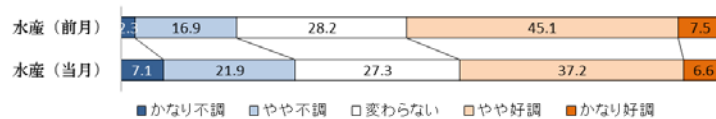
1. 青果 DI：-1.2（やや不調）

青果相場は高安まちまちな相場が続いており好不調のコメントが混在する結果となった。葉物野菜は、好調と不調のコメントに分かれ、トマトについては好調の声が多かった。果物は柑橘類やいちごは好不調の判断が分かれている。リンゴは好調とするコメントが多かった。



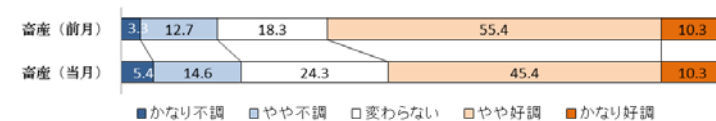
2. 水産 DI：3.6（やや好調）

日持ちする商品（冷凍加工品等）には駆け込みの反動もみられるものの、引き続き刺身類が好調とのコメントが多くみられた。まぐろや鮭は好調。旬食品のあさり等の品揃えや企画、販売方法に取組みを行っており、その成果を指摘する声もみられた。



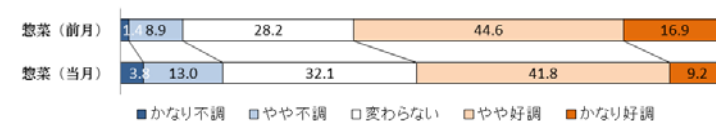
3. 畜産 DI：10.1（好調）

引き続き精肉相場高が続いており、牛肉、豚、鶏共に単価上昇がみられている。輸入肉の値上りにより特に豚肉で国産シフトがみられている。引き続きステーキ、焼肉用牛肉や値ごろ感のある鶏肉も好調であるとの声が多い。加工肉も各種取組みの成果がでている店舗が多い。



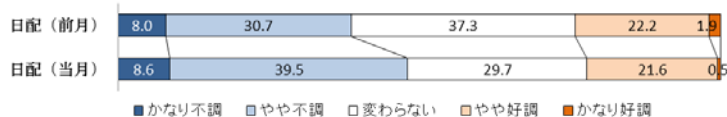
4. 惣菜 DI：9.9（やや好調）

出来立て作り立ての惣菜の提供や、旬な食材を使った季節感を出した惣菜等を行楽やひなまつり、卒業式に向け取組みを強化しており、その成果で好調となった店舗が多い。なかでも米飯が好調であった。週末の雨が多かった地域ではその影響を受けている。周辺店舗との競合の厳しさを指摘する声もみられた。



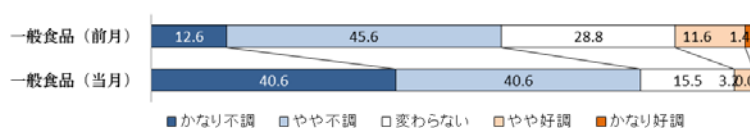
5. 日配 DI：-8.5（やや不調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめの対象となった商品（日持ちする冷凍食品等）に反動の影響がみられた。ヨーグルト飲料は引き続き好調であり、パン類も好調にあげられている。乳製品は、値上げを控えて好不調の判断がわかれている。気温の上昇した地域では涼味系商品の好調があげられた。



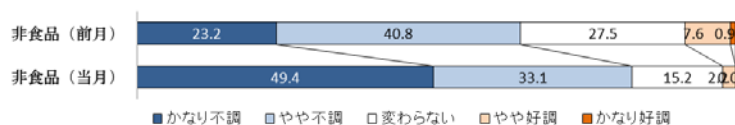
6. 一般食品：-29.7（かなり不調）

前年消費税率引き上げ前の買いだめの影響を大きく受けるカテゴリでありかなり不調となった。ウイスキーやシリアルなどが好調であるとの声があったものの、反動をカバーするまでには至らなかった。



7. 非食品 DI：-32.4（かなり不調）

一般食品カテゴリと同様に前年消費税率引き上げ前の買いだめの影響を大きく受けるカテゴリでありかなり不調となった。



2015年3月実績キーワードTOP3

1. 前年駆け込み需要からの反動
2. 気温上昇、週末雨（天候要因）
3. 前年より土曜日が一日少ない

スーパーマーケット景気動向調査 4月調査結果

- 3月実績速報版集計 194社
- 2月実績確報版集計 225社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp